



赤十字国際委員会 presents

OUR WORLD AT WAR

～「戦い」を生き抜く人々～ 写真展

2009.12.21[月]-25[金]

ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター 11:00～19:00

入場無料



Our world is in a mess.
It's time to make your move.
ourworld-yourmove.org



ICRC
icrc.org

VII



VII Photographers

2001年に米国・ニューヨークにおいて7名の写真家によって結成されたフォトジャーナリスト集団、VII(セブン)。社会問題に焦点を当て、地球上の様々な戦い・非行を、写真という媒体を使って"記録"する。



ロン・ハヴィブ
Ron Haviv

世界中の紛争・人道危機を追い、最近ではスーダン・ダルフルやコンゴ民主共和国を訪れた。受賞経験も豊富で、World Press PhotosやPictures of the Year、Overseas Press Clubなど数多くの団体から賞を授与され、Leica Medal of Excellence賞の栄誉も手にした。ハヴィブの作品は現在も世界中の雑誌—Fortune、the New York Times Magazine、TIME、Sterneなど—toに掲載され、ルーブル美術館や国際連合本部にも展示されている。



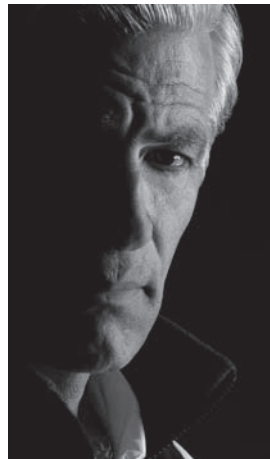
アントニン・クラトフヴィル
Antonin Kratochvil

1947年にチェコスロバキアに生まれる。1967年に故郷を離れ、アメリカに落ち着くまでの数年間を難民として暮らした体験が、独自の撮影技法を生み出した。World Press Photos賞を受賞したカメラマンの中で、クラトフヴィルほどテーマが多岐にわたり多才な人物はいない、と言われている。The Infinity Award for Photojournalists of the YearとLeica Medal of Excellenceなど、過去30年の受賞歴は枚挙に暇がない。



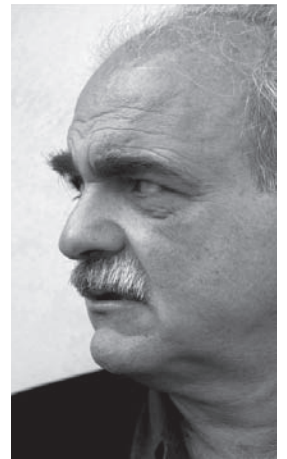
クリストファー・モリス
Christopher Morris

1958年、カリフォルニアに生まれる。モリスの過去20年のテーマは、戦争。湾岸戦争、コロンビアでの薬物戦争、そしてアフガニスタン、チェチェン、ソマリア、旧ユーゴスラビアにおける戦争など、様々な地域の紛争を撮り続けてきた。最近では、プッシュ前政権を5年間取材し、TIME誌に定期寄稿している。



ジェームス・ナックウェイ
James Nachtwey

1981年の北アイルランド市民暴動以来、戦場カメラマンとして武力闘争や社会問題に焦点を当てて。2000年、自身の活動を取めたドキュメンタリー映画「War Photographer」がアカデミー賞候補に挙がる。ナックウェイの作品はニューヨーク近代美術館、フランス国立図書館に収蔵され、1984年からはTIME誌のカメラマンとして活躍中。



フランコ・パゲッティ
Franco Pagetti

1994年から報道カメラマンとして活躍する。アフガニスタン、コンゴ、東ティモール、カシミール、パレスチナ、シエラレオネ、そしてスーダン南部など、紛争地域に焦点を当てて活動している。2003年1月、イラク戦争が始まる3ヶ月前に現地に入り、現在はTIME誌と提携して、バグダッドに活動の拠点を置く。

OUR WORLD AT WAR ~「戦い」を生き抜く人々~

「赤十字」は2009年、赤十字思想誕生150周年を迎えました。

1859年、北イタリアで起こった「ソルフェリーノの戦い」。わずか9時間で幕を閉じたこの戦いでは六千人の兵士が戦死し、負傷者、行方不明者、捕虜の数は三万五千人にものぼりました。この惨劇を目のあたりにしたスイス人実業家、アンリー・デュナンは急遽、村人とともに救援隊を編成し、負傷した兵士達を手当てしました。

ジュネーブに戻ったデュナンは、戦争で傷ついた人々を敵味方の区別なく救いたいと考え、ここに赤十字思想が生まれました。そして1863年、赤十字の最初の機関として赤十字国際委員会(ICRC)が創設されました。

時を同じくして「写真技術」も世に産声を上げました。戦争によって人々にもたらされる不要な苦しみをなくす—人道支援に携わる者と戦場で写真を撮り続ける者の150年にわたる共通のテーマです。ICRCは150周年を記念し、世界的に著名なフォトジャーナリスト集団「VII(セブン)」とのコラボレーションを実現させました。写真界で数々の受賞経験を持つカメラマン5人がICRCの活動地のうち8カ国*を訪れ、性的暴行により心に傷を負った女性や、住む場所を失った一家、そして犯罪集団の暴力に脅かされている人々の姿に迫ります。(※アフガニスタン、コロンビア、コンゴ民主共和国、グルジア、レバノン、リベリア、ハイチ、フィリピン)

彼らの作品一枚一枚から浮かび上がる現実—それは、現代の戦争・紛争がもたらす惨状がソルフェリーノの戦い当時と少しも変わっていないこと。そして、戦いが絶え間なく続く一方で、苦しんでいる人々を救おうとする一般市民の弛みない努力が存在し続けていること。

地球上のあらゆる非行を"記録"し続けるフォトジャーナリスト達が捉えた21世紀の現状、そして、それら記録の断片から湧き出るメッセージを心に焼き付けて下さい。

1863年に創設された赤十字国際委員会(ICRC)は、平時において活動する救護団体の必要性を訴え、各国に赤十字社(イスラム教国では赤新月社)が組織されていきました。日本赤十字社をはじめとする赤十字社・赤新月社は現在186カ国に根を下ろし、自然災害の現場や保健・医療・福祉の分野で活動しています。また、紛争の現場ではICRCと連携し、医療活動を行っています。

国際赤十字は、「赤十字」思想を共有する、ICRC、各国の赤十字社・赤新月社、そして各国の赤十字社・赤新月社の活動を調整する国際赤十字・赤新月社連盟の三者から構成されます。三者の活動は「国際赤十字・赤新月運動」と呼ばれ、日夜地球規模で人道支援を行っています。

国際赤十字は2009年、赤十字思想誕生150周年を記念して「Our world. Your move.」キャンペーンを実施しています。「苦しんでいる人びとを救うため、私たち一人ひとりが身近なところから確かな行動をとる必要がある」—このキャンペーンを通じて、様々な形で「参加」と「行動」へのメッセージを発信していきます。



ヨコハマ・クリエイティブシティ・センター

<http://yaf.or.jp/yc/>

〒231-8351 横浜市中区本町6-50-1 TEL:045-221-0325
 ・みどり線(馬車道駅)下車 1b出口(野毛・桜木町(アイランドタワー)連絡口)
 ・JR・市営地下鉄(桜木町駅)下車 徒歩5分 / 関内駅下車 徒歩7分
 ※駐車場はございません。近隣有料駐車場をご利用ください。



International Committee of the Red Cross

ICRC
www.icrc.org

赤十字国際委員会 駐日事務所

〒105-0021 東京都港区東新橋2-9-3 ラ・ピアッツォーラ6F
TEL: 03-6459-0750 FAX: 03-6459-0751



日本赤十字社

日本赤十字社 神奈川県支部

〒231-8536 横浜市中区新山下3-12-1 横浜立みなと赤十字病院5階
TEL: 045-628-6306 FAX: 045-628-6346